

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
6. 糖尿病患者さん食事体験入院
7. 関節リウマチ患者さん教育入院

傾聴ボランティア活動が始まって



病棟から城山台を望む

傾聴ボランティア「うさぎ」の方々に6月20日（水）より週1回程度の頻度で来院して頂き、外の景色を眺めながらデイルーム等で患者さんと個別に傾聴活動をして頂いています。患者さんからは「いっぱい話ができ、1時間があっという間に過ぎました」という声を頂き、また、ボランティアさんからは「新たに気付かされること、勉強させてもらえる面があり、今後に活かしていきたいです」とおっしゃって下さっています。

（事務局 総務担当副リーダー 大西 勝也）

○お盆休みの期間中など、一時的に在宅医療の継続が困難となる場合、地域包括ケア病棟『彩り（いろどり）』をご利用下さい。

直通電話：0774-73-1818（担当；中野・中嶋）

地域包括ケア病棟“彩り”のリーフレットが完成しました。

当院地域包括ケア病棟“彩り（いろどり）”の役割や取り組みについて、広く知って頂くために、リーフレットを作成しました。受け入れ可能な病名や実際に受け入れさせて頂いた事例の紹介の他、身体機能維持・向上を目的とした取り組み（集団リハビリやレクリエーション）について紹介しています。

今後、各市町村の地域包括支援センターなどへの配架を予定していますので、是非一度お手にとってご覧いただければ幸いです。また、内容についてご意見などがありましたらお寄せ下さい。今後の参考にさせていただきます。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）



地域医療連携室より

6月の実績と事例紹介

6月は26名の患者さんを直接、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れをさせて頂きました。当院急性期病棟からの受け入れが29名でしたので、直接、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れさせて頂いた割合は全体の約47%となりました。平成29年度の平均は28.7%でしたので、この数値を大きく上回っています。直接受け入れさせて頂いた26名のうち、15名はレスパイトやリハビリ目的などの予定入院、11名は救急受診後の入院で、圧迫骨折や肺炎などの病名となっています。

*

先日、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れさせて頂いた一例を紹介します。受け入れしたAさんの主な介護者は奥様でしたが、奥様にはご病気があり、以前より当院の訪問看護部門の看護師が定期的に訪問していました。その奥様が病状悪化のため日曜日の明け方に急遽当院へ入院となりました。日曜日の午前中、訪問看護部門の看護師から連絡をもらい、認知症のあるAさんの受け入れ先を一緒に検討しました。Aさんは当院受診歴がほとんどなく、情報に乏しかったのですが、その日のうちに奥様の主治医と相談し、当院地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れする準備を始めました。ケアマネジャーとも相談し、3日間はショートステイに空きがあるとのことでしたので、最終的にはショートステイの退所日から当院で受け入れする段取りをさせて頂きました。Aさんの状態の確認と、Aさんが安心して地域包括ケア病棟“彩り”で入院生活を送って頂けるよう、ショートステイ先まで中野ソーシャルワーカーと豊島看護師が足を運び、ショートステイ先の看護師や介護士の方から情報提供を受けました。

入院後は環境の変化から混乱も見られましたが、少しずつですが入院生活にも慣れてこられ、集団リハビリにも参加されています。現在、当院併設の老健やましろへの入所調整をしています。

（地域医療連携室 室長 南出 弦）

直接入院の割合(%)

